| えんぽとたんぽの始発駅<br>里山ビオトープ二俣瀬 | 会 報　第71号 | ２００７年6月２３日<br>里山ビオトープ二俣瀬をつくる会<br>編集責任者：西原 一誠 |
| --- | --- | --- |

**１．活動報告（事務局　記）**

― ５月２８日（月）本日　須賀河内川の葦を刈り取りました。中国電力（株）宇部電力所の柴田さん始め午前午後各１５名計３０名のボランテアにより川がきれいになりました。当会から関根、原田賢、吉富匡、原田マで対応しました。午後からは橋周りの川に落ちていた葉っぱ、ナイロンごみなどもきれいに取り上げてカワムツ（ハヤ）がきれいに見える様になりました。その他蕎麦田周り、田んぼ周りの畦の草刈や草原のカブトムシ小屋周辺の草の手刈りもしていただきました。ホタルの羽化時期、産卵時期の回避と須賀河内川大雨前の土砂の流れの調査も踏まえての刈り取りであったため、大変苦労しました。

― ６月３日（日）参加者は農繁期で予定通り少なく１３名でしたが

① 池の中のアサザ、湿地帯の黄あやめ、スゲの間引き、エコアップをしました。また池の浮島のサギ草の生育具合を確認しました。８月始めはきれいなサギ草が楽しみです。

② ビオトープ駐車場の草刈を徹底的に行ないました。処分については２・３日あとに行ないます。

― ６月８日（金）駐車場の刈り取った草を処分（焼却）しました。　　吉富匡、原田マ

― ６月９日（土）子どもエコクラブの皆さまが環境学習に来られました。　小学生２１名　スタッフ５名　ビオトープ会員指導者４名　（田村、美濃和、西原、原田マ）でした。
動植物の採取、捕獲をビンゴゲーム風に２０種を４班で、どの班もクリアして動物はもとの場所に戻しました。　中にはビンゴゲーム外の「カナヘビ」「イモリ」「どじょう」など捕獲し、楽しんでいました。　気にかかったことで、「げんごろう」「スジ海老」「沢がに」「かまつか（ほうせんぼう）」を全く見なかったことです。

― ６月１２日（火）善和園の皆さま３０名によるビオトープ全般の草刈をしていただきました。前回残っていた部分も全て刈っていただきました。お礼を申し上げます。本当にお疲れ様でした。原田賢、原田マにて対応しました。

― ６月１３日（水）蕎麦田の耕しと田んぼの代掻き実施　　原田宗会員（トラクター提供含）

― ６月１５日（金）田植え準備（田んぼの泥均し〔泥をならして平均にすること〕）、綱とり、苗受け取り）とテント張り、シシなべ用鍋用具運搬準備。原田賢、藤村、林弘、原田マ各会員

― ６月１６日（土）午前、田植えの一大イベントが終わりました。あとは合鴨の草取り自然肥料撒布による出来具合を見るばかりです。 本日は二俣瀬小育友会児童１９名＋保護者８名。「里山自然観察隊１２名＋保護者１０名」とつくる会会員２３名の総勢８２名で泥まみれになって田植えを経験しました。　終ってから“膝癒し（泥落とし）”をシシ鍋を食べながら楽しく懇親会をしました。

― ６月１６日（土）午後は、1 班は田んぼ周囲に猪に対する防護柵兼合鴨の逃走防護柵を取り付けをし、片班は里山自然観察隊の「昆虫」を観察しました。　隊員２０名、保護者１１名、つくる会の指導者１４名でした。それぞれの活動ご苦労様でした。

― ６月１９日（火）合鴨５羽入荷

## ２．今後の予定（事務局　記）

◎　見学者　現在の所申し込みはありません

◎　行事

－　７月　１日（日）（第一日曜日）保全活動（エコアップ、池のアシ一部取り除き）
合鴨、カルガモの放鳥訓練会員全員で行ないます

－　７月２１日（土）（第三土曜日）保全活動、
午後　里山自然観察隊（田んぼの生き物）

## ３．来訪者の声　（東屋のノートより一部抜粋）

－６月３日－　このような場所があることを国道そばの JA 案内板で知りました。二俣瀬地区の歴史に興味を持っています．厚東氏の想起させるような素晴らしいたたずまいです。ゆっくり来て弁当を食べたり、全コースを散策しようと思います。　山口市　老夫婦

－６月７日－　下関と宇部の男が二人のゆっくり旅二俣瀬に大きな水車が出来とると知とうね！と友人が威張って言っとるがね、じゃあ行って見るかと出かけた。入り口がちいさすぎて良くわからなかったが水車が見える所にきたら池に川に良くきれいに整地されて睡蓮（ひつじくさ）のはなもきれいに咲いていて、静か過ぎてなにも浮かべる事ができません。ここでゆっくり二時間も二人が話すことは無く無言でした。小鳥、カラス、鶯のひびきだけですネ。今日一日がこれで楽しめました。有難うございました。
下関の“ 林 ”と宇部の“ けん ”でした。

－６月１７日－　今回で二度目です。一回目に来たときより水がにごっているように感じました。以前来たときは何月か忘れましたがメダカがたくさんいて感激しましたのですが、今回はメダカが見当たらないようで残念でした。追伸　トイレたすかりました。
H、19，6，17 父の日

トンボのふかがみれてたのしかった。　山口市阿知須　ｃ１
トンボがすごいでかいのとちいチャイのがあってかわいかった。山口市阿知須　さくら

－６月 18 日－　友人につられて来いました．大自然の中で背伸びする思いでした。逆にこれを管理される方は大変だろうねと感謝しながらここまでたどり着きました。
シルバー　男性一人、女性二人

## ４．ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物）　美濃和　信孝

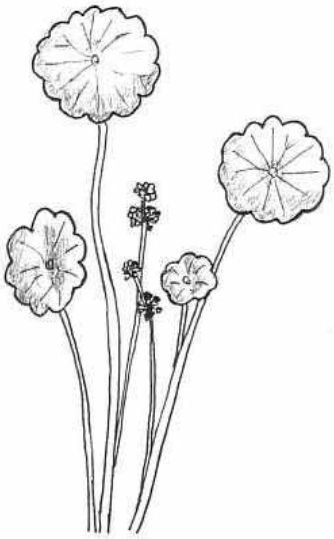
### 湿地の外来植物

ビオトープの湿地には、今問題となる外来植物が2種あります。

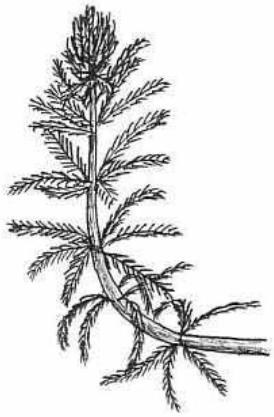
ひとつは、タテバチドメグサ（盾葉血止草、別名ウチワゼニクサ（団扇銭草））という北米原産の帰化植物です。実は、昨年もこの植物はなんだろう、という話はあったのですが、つい最近になってやっと種類を同定することができました。このタテバチドメグサ、１９６０年ごろウォーターコイン、ウォーターマッシュルームなどの名前で熱帯魚と共に観賞用として輸入したものが逸出して各地に広がり、問題になっています。ビオトープの湿地でも、昨年はアサザの脇に少しあっただけだと思いますが、今年はアサザやデンジソウを押しのける勢いで、湿地の中央の橋の両側にびっしり生えています。特徴はその名の通り、在来のチドメグサに似た光沢のある円形の葉を盾状に付けます。葉が水面から立ち上がること、アサザやトチカガミとは違って、葉に切れ込みがないことで区別は容易です。６月に入って、いかにもセリ科という感じの白い小さい花を付けているのが観察されました。多年草ですが、種でも増えるそうで、一度入り込むと、駆除が大変で稀少種を駆逐してしまうといいます。

オオフサモ（大房藻）は、かねてより駆除に努めていますが、それでも毎年旺盛な成長力で他の植物を圧倒している厄介な外来種です。２００６年２月１日から、外来生物法による特定外来生物種に指定され、栽培、保管、運搬、輸入、野外に放つことが禁止されています。特定外来生物とは、外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業に対して被害を及ぼしているか、または、被害を及ぼすおそれがある生物を指定したもので、あまたある外来種の中でも札付きの悪玉といって差し支えないでしょう。この植物も水槽の水草として持ちこまれたもので、法律施行前は確かに鑑賞魚の店で売られていました。雌雄異株ですが、日本には雌株だけが見られ、種はできないのにこの繁殖力は恐るべきものがあります。他の水草が枯れている冬もそのまま越冬し、春いち早く茎を伸ばして広がります。抜いても根と地下茎の一部がどうしても残ってしまうので根絶は難しく、生えてきたら抜く、というイタチごっこがいつまでも続きます。

オオフサモにしてもタテバチドメグサにしても、本来は水槽の水草として鑑賞用に持ちこまれたものですが、ビオトープのような適地に入り込むと在来種を駆逐する勢いで広がっています。これが外来種の恐ろしいところで、外来生物の輸入は、もしそれが逸出した場合にどういう影響があるかを十分考慮した上で決めるべきで、鑑賞用にきれいだとか育てやすいとかの安易な考えで入れるべきではないです。そうはいっても、もうすでにビオトープに入り込んでしまったこれらの外来種、われわれとしては覚悟を決めて、これから駆除に努めていくしかありません。



タテバチドメグサ（セリ科）



オオフサモ（アリノトウグサ科）

## ５．会員の声

今回は投稿がありませんでした。

## ６．里山自然観察隊　（６月１６日、隊員２０名、保護者１１名、会員１４名）

### 昆虫観察

今回は、心配された雨も降らず、無事行うことができてほっとしています。また、曇りでしのぎやすくもありました。しかし、虫探しには、今ひとつの天気というほかありません。特に、蝶はいくつかの種類をのぞき、ほとんど飛んでいる姿を見ることができませんでした。それなのに、子供たちはすごいとしかいいようがありません。

蝶１５種類、トンボ１７種類、バッタ他１８種類の計５０種類が観察されました。

天気がよければ、季節的にももっとたくさんの虫たちが見られたと思います。

| 蝶 | トンボ | バッタ・甲虫 |
|---|---|---|
| 【シジミチョウ科】<br>ベニシジミ、ルリシジミ、ツバメシジミ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ、ヤマトシジミ、<br>【シロチョウ科】<br>モンシロチョウ、キチョウ、<br>【タテハチョウ科】<br>メスグロヒョウモン、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、イシガケチョウ、ヒメウラナミジャノメ、<br>【セセリチョウ科】<br>チャバネセセリ、ダイミョウセセリ | 【イトトンボ科】<br>ベニイトトンボ、キイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ、オオイトトンボ、アジアイトトンボ、<br>【モノサシトンボ科】<br>モノサシトンボ、グンバイトンボ<br>【トンボ科】<br>ハラビロトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ<br>【サナエトンボ科】<br>ヤマサナエ、コオニヤンマ<br>【ヤンマ科】<br>サラサヤンマ、ギンヤンマ<br>【エゾトンボ科】<br>コヤマトンボ | 【バッタ】<br>キリギリス、カマキリ、ツチイナゴ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、他２種<br>【甲虫】<br>マメコガネ、セマダラコガネ、コガネムシ、ドウガネブイブイ、ナナホシテントウ、ホシハラビロヘリカメムシ、他４種<br>【蛾】<br>ヒョウモンエダシャク |
| 15 種類<br>（５科 14 種） | 17 種類<br>（６科 13 種） | 18 種類<br>（15 種類） |

（　）内は、平成 18 年度の結果

（藤井　義晴　記）

## ７．会よりの連絡事項

１）　広報宇部７月１日号にて当会の紹介記事あり。見てくださいね。

２）　合鴨のひな５羽１９日入荷し特訓中です、７月１日に放鳥します。

３）　？

４）　１９年度会費未納者の方

・お名前は公表しませんが、未納者は早急に納めてください。会計係りも大変です。

もし振り込まれるならＪＡ山口宇部農協二俣瀬支所　口座番号４０２５４６６にお願いします。

## ８．編集後記

今年も田植えが無事終わり、膝癒しのシシ鍋を原田満洲夫さんが用意して下さりみんなでお代わりして おいしくいただきました。アイガモ農法への準備をしていた所へ一足先にカルガモが。思いがけず親子となったチャボと三羽のカルガモ。水に入れないチャボ親を小屋に残し池で泳いだり戻ったり、心配そうに温かく見守り育てている。虐待だ何だと肌寒い思いをする人の親子関係に対して心和まされる微笑ましい姿です。

（松本　フデ子　記）